

## 第1章 報告書の概要

### 第1節 はじめに

今後の日本の労働市場を考えると、少子高齢化・人口減少による影響を我々は免れられない。国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によれば、2050年には総人口は約9700万人、15歳以上人口は約5000万人になると予測されている。これを2010年と比較すると、総人口は3000万人ほどの減少、15歳以上人口は3200万人ほどの減少となり、総人口の減少スピードに比べて若年人口の減少スピードが速い。

15歳以上人口の減少は労働力減少を意味し、日本経済へのインパクトはとても大きい。労働力減少による日本経済への影響を緩和し、持続的な成長を達成するために、(1)既婚女性や高齢者の活用を図り、労働の量を確保すること、そして(2)労働者一人一人の生産性を引き上げるような労働の質を確保すること、が同時に必要となる。

労働者の生産性を向上させて行くことは今後の日本経済にとって重要なポイントであるが、足下の生産性の現状を見るとそこでも問題を抱えている。というのは、日本生産性本部が公表している『日本の生産性の動向』（2012年版）によれば、2011年の日本の労働生産性はOECD加盟34カ国中19位で、主要先進7カ国中では最下位と報告されており、労働生産性の向上は現在でも課題と考えられているからである。

今回の報告書では、ホワイトカラーの生産性に関して、その向上に寄与する要因は何かを実態調査をもとに探っている。